

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立槻の木高等学校
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立大学への現役合格者の増加 ・ 一日平均学習時間の増加。 ・ 学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の向上
計画名	～主体的・対話的で深い学びの実現～ 槻の木「探究する授業」プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶</p> <p>(1) 大阪を代表する全日制普通科単位制高校として、進学を重視した規律ある学校を維持、発展させる。</p> <p>ア 新学習指導要領や高大接続改革に対応し、また進路実現に向け常に適切にカリキュラムや指導と評価の研究を行なうことで、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の向上のための取組みを推進する。</p> <p>※ 令和4年度において、学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を84%にする。（H29：71%、H30：75%、R1：75%）</p> <p>イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。</p> <p>※ 令和4年度において、国公立大学現役合格者を22%以上にする。（H29：14.6%、H30：13.7%、R1：6.7%）</p> <p>ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。</p> <p>※ 令和4年度において、一日平均学習時間（2年生10月）110分以上を維持する。（H29：94分、H30：95分、R1：107分）</p> <p>エ 「槻の木 NEXT STAGE」（企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など）の取組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努める。</p>
事業目標	<p>ICTを活用した「主体的・対話的で深い学びの実現」のための継続的な「探究する授業」の研究を推進し、「興味・関心が湧く授業」「体験・発表型授業」に取り組むことで、生徒の学力及び学びに向かう力を育てる。</p> <p>もって、「R3年度において、国公立大学合格者現役20%以上をめざす。」を、「H31年度に16%、R2年度に19%、R3年度に22%以上をめざす」に変更。また、「R3年度において、一日平均学習時間100分以上（2年生10月）を維持する。」を「H31年度に100分、R2年度に105分、R3年度に110分以上にする」に変更する。さらに、「学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」をH30年度の75%から毎年3%引き上げ、R3年度には84%にする」を付加し、その実現をめざす。</p>
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての教室（18教室）への短焦点プロジェクターの設置。

取組みの 主担・実施者	<p>主担者： 槻の木「探究する授業」プロジェクトチーム（教頭、事務長、首席、教科代表者、情報係）</p> <p>実施者： 全教員の8割程度。</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトチーム（PT）のメンバーで、講義形式・板書クローズアップ形式・スライド音声入力形式による授業動画作成について、プロジェクターの利用について等の研修用動画を作成し共有フォルダーに収納すると共に、活用を呼びかけ。（5月～） ・ 全教員に Google Classroom（仮作成）への入室を呼びかけ、授業や課題の投稿（先生役）と課題の提出（生徒役）等を実施。（5月～6月） ・ 非常勤講師を含む全教員が参加して、オンライン授業及び Google Classroom に係る職員研修を実施。（5月28日（木）） ・ 全教科で、オンライン授業試行用動画を作成。6月、10月に全校生徒向けの配信及び課題提出、質問対応、トラブル対応を実施。 ・ 教育センターが配信する教育課程協議会の動画研修への年内参加を全教員に呼びかけ。 ・ プロジェクター及びタブレット活用に係る職員研修を実施。（10月1日（木）） ・ 研究授業は、後期・全教科で実施。教科代表及びPTメンバーによるプロジェクター等を活用した探究する授業の研究授業を実施。（10月～）報告会を実施。（2月）
成果の検証方法 と評価指標	<ol style="list-style-type: none"> ① 国公立大学現役合格者を19%以上にする。 ② 1日平均学習時間（2年生10月）を105分以上にする。 ③ 学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」を81%にする。
自己評価	<p>今年度は、本事業のプロジェクトチーム（探究PT）に加え、新型コロナウイルス感染症対策に伴うオンライン学習やGIGAスクール構想の実施について「オンライン授業プロジェクトチーム」（オンライン授業PT）を立ち上げ、合同で事業を進めることで、主体的・対話的で深い学びの実現を進めることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国公立現役合格者は、11%……………（△） ② 令和2年10月の2年生1日平均家庭学習時間は107分……………（○） ③ 学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」は、84%……………（◎）
次年度に向けて	<p>探究PTを中心とした取組みを強化していく。オンライン授業PTは、R3年度より学校運営室総務課に位置付けるので、探究PTと総務課が連携して進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Chromebookに係る研究を進め、校内研修を実施。 ・ 研究授業・研究協議（前後期各1回、全教科）を実施し、報告会を開催する。 ・ 今年度、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった先進校視察・報告会を実施。